

課題改善カリキュラム【 国語科 】練馬区立大泉第二中学校・大泉第二小学校・大泉南小学校

課題		①書くことで個人差が大きい	②論理立てて書けない	③書き方がわからない	研究テーマ	自分の思いや考えを文章で書き表すことができる児童・生徒の育成 ～読むことから書くことへつなげる指導法の工夫・改善について～		
学習期	身に付けさせたい資質・能力				指導の工夫		カリキュラム改善の視点	
中学校	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら、自分の考え方を深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。 ・自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・文章を批判的に読み、自分の意見や考えをもつために、新聞記事などを利用する。 ・説得力のある文章を書くために、考えの根拠をあげメモを作る。 ・わかりやすい文章を書くために、構成を考え、構成メモの活用をする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・よい文章にふれ、資料の引用など論理の展開を工夫して、説得力のある文章を書かせる。
	2年	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら、自分の考え方をまとめることができる。 ・自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・社会的視野を養うために、新聞等を読ませ、その中から作文に使う記事を選ばせる。 ・自分の意見を説得力のあるものにするために、自分の体験等から具体例を考えさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・事実や意見の記述において、説明や具体例を工夫することで、相手に効果的に伝わる文章を書く努力をさせる。
	1年	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめることができる。 ・集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活にかかわることなどについて書くために、身のまわりのことから生まれる「問い」を手がかりにして、課題を決める。 ・構成を考えて書くために、カードを活用し、文字数制限の中で書く意識をもち、内容をまとめ書く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・入手した情報、自分の考えや意見について、整理したり取捨選択することで、相手に伝わる文章としてまとめさせる。
小学校	6年	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理することができる。 ・自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えることができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・書く事柄を収集するため、図書資料や新聞を活用する。 ・事柄を整理するために、短冊や付箋、作文カードを活用する。 ・文章全体の構成の効果を考えるために、モデル文の読み比べやグループでの話し合いをする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な題材から関心をもたせ、モデル文を読み比べ活用させることで、自分の考えを明確に表現させる。
	5年							
	4年	<ul style="list-style-type: none"> ・関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べることができる。 ・文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・書くために必要な事柄を調べるために、本や辞典の活用、身近な人へのインタビューの話形の提示をする。 ・段落の役割を理解するために、例文の提示や分析をする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・モデル文を提示し文章構成を分析することで、段落の役割を理解し文章構成する力をつけさせる。
	3年							
	2年	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めることができる。 ・順序や構成を考えて教材文を読み、読んだことを生かして書くことができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・事柄の順序に沿って書けるようにするために、パターンの提示をし、ワークシートの工夫やふきだしの活用をする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・音読や読書の時間を意図的に設定することで語彙力や文章表現を豊かにさせる。 ・書き方の提示やゲーム活動様々な例文にふれることで文章構成をする力をつけさせる。
	1年							

課題改善カリキュラム【 算数科 】練馬区立大泉第二中学校・大泉第二小学校・大泉南小学校

課題 基礎学力や知識に個人差が大きい/見通しをもって筋道を立てて考える力が弱い		研究テーマ 「基礎基本の定着・課題解決」	
学習期	身に付けさせたい資質・能力	指導の工夫	カリキュラム改善の視点
中学校	3年 一般の相似な平面図形について、相似比と面積の比の関係を見だし、面積を求めることができる。	三角形の面積の比を求めることができるようにするために相似比から具体的にどのようにして求めることができるかを確認する。また、三角形を利用して様々な多角形について相似比と面積比の関係を確認する。	試行錯誤を通して、自ら関係性を導きさせるようにする。
	2年 合同な図形の性質、三角形の合同条件について理解し合同条件を利用することができる。また、平行四辺形の性質など簡単な図形の性質を証明することができる。	三角形の3つの合同条件を理解するために具体的に作図などの作業を通して体験的に理解する。また、簡単な図形の性質の証明を三角形の合同条件を使って、確認していく。	定理・定義をもとに論理立てて説明できるようにする。
	1年 ・実験などから導かれる球の体積の求め方を理解し、実際に球の表面積と体積を求めることができる。 ・式や単位の意味を理解することができる。	・球の体積を求める公式の理解を深めるために、柱体の体積との関係を予想させ、その予想を確かめるといふ流れで、模型を用いた測定の実験を行い、体験的に公式を導く。 ・単位が計算結果になっていることを関連させて、式の意味を確認していく。	実験などを通してイメージをつかませることで、公式を自分で発見できるようにする。
小学校	6年 ・円の面積の求め方を考え、計算によって求めることができる。 ・角柱および円柱の体積の求め方を考え、計算によって求めることができる。	・円の面積の求め方や公式の理解を深めるために、既習の面積の学習と関連させて、面積の求め方を考えたり公式をつくり出していく活動を重視する。 ・体積の公式の理解を深めるために、既習の体積の学習と関連させて、体積の求め方を考えたり公式をつくり出し一般化していく活動を重視する。	求め方を考えて、説明する活動を重視することで、数学的な考え方の基礎を養う。
	5年 ・三角形、平行四辺形、ひし形および台形の面積を計算によって求めることができる。 ・体積について単位と測定の意味を理解し、体積を計算によって求めることができる。	・思考力や表現力を高めるために、面積の求め方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動を重視する。 ・体積についての量感を育てるために、身の回りにある立方体や直方体の体積を実際に求める体験的な活動を重視する。	求め方を考えて、説明する活動を重視することで、数学的な考え方の基礎を養う。
	4年 ・面積について単位と測定の意味を理解し、面積を計算によって求めることができる。 ・角の大きさについて単位と測定の意味を理解し、角の大きさの測定ができる。	・量感を育てるために、身の回りにある面積を実際に予想したり、測定したりする活動を重視する。 ・角の量感を育てるために、測定する際に見当をつけ直角をもとに根拠を言わせる。そのうえ、かいた角をあらためて測定したりするなどの活動を重視する。	根拠をもとに予想し、実際に測定することで、量感を育む。
	3年 ・長さについての理解を深めるとともに、重さについて単位と測定の意味を理解し、重さの測定ができる。 ・長さや重さについて、およその見当を付けたり、目的に応じて単位や計器を適切に選んで測定したりできる。 ・秒について知り、日常生活の中で必要となる時刻や時間を求めることができる。	・長さや重さの量感を育成するために、見当をつけ生活経験から根拠を言わせる。そのうえ、測定する活動を取り入れる。 ・時間が連続量であることを意識させるために、数直線などを十分に活用して学習できるようにする。 ・短い時間の量感をつかませるために、秒単位の短い時間を体感させる。	根拠をもとに予想し、実際に測定することで、量感を育む。
2年 ・時刻と時間の違い、日、時、分を読めるようにし、日常生活に生かすことができる。 ・単位の意味と測定の原理を理解し、長さの測定ができる。長さについての量の感覚を身につける。 ・単位の意味と測定の原理を理解し、体積の測定ができる。体積についての量の感覚を身につける。	・時刻と時間の感覚を身につけさせるために、具体的な生活場面(時刻と時間、午前と午後、1時間=60分、1日=24時間)と関連させながら力をつける。 ・単位の意味と測定の原理を理解するために、任意単位による長さの比較、長さの測定(cm、mm、m)などの活動を通して力をつける。 ・単位の意味と測定の原理を理解するために、任意単位による容積の比較、容積の測定(L、dL、mL)などの活動を通して力をつける。	具体的な操作を通して、量感の基礎を養う。	
1年 ・何時、何時半の時刻を読めるようにし、日常生活に生かすことができる。 ・長さや測定についての理解の基礎となる経験や、長さについての感覚を豊かにする。 ・体積とその測定についての理解の基礎となる経験や、体積についての感覚を豊かにする。 ・面積の概念や測定についての理解の基礎となる経験や面積についての感覚を豊かにする。	・時刻を日常生活に生かすことができるようにするために、具体的な場面から操作活動を通して時計の読み方の基礎を身につける。 ・長さについての感覚作りのために、長さの直接比較、間接比較と任意単位による長さの比較の活動を通して力をつける。 ・体積についての感覚作りのために、容積の直接比較、間接比較と任意単位による容積の比較の活動を通して力をつける。 ・面積についての感覚作りのために、面積の直接比較、任意単位による面積の比較の活動を通して力をつける。	具体的な操作を通して、量感の基礎を養う。	

課題		研究テーマ			
実験に対する目的意識・主体性・見通しをもてない児童・生徒がいる。		見通しをもって主体的に学ぶ児童・生徒の育成			
学習期	身に付けさせたい資質・能力	指導の工夫	カリキュラム改善の視点		
中学校	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに実験計画を立て、その計画をクラス全体で共有することで、適切な観察・実験の方法を検討させる。 ・導入を工夫し、疑問をもたせるようにすることで、目的意識をもって実験ができるようにする。 ・観察・実験によってどのような結果が得られたかを確認しまとめる。その結果を根拠として、自分の立場(考え)を明確にさせる。その上で何が分かるのかを討論させ、討論の中で多様な考え方の存在を認め、科学的な見方や考え方を養う。 	<p>児童・生徒が「何のために観察・実験をするのか」という見通しや目的意識をもって主体的に学ぶことができるようにするため、以下の3点をカリキュラム改善の視点とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を見出す場面における共通体験の充実 ・問題に対する予想の場面における、小グループでの話し合いの時間の確保 ・実験方法を検討する場面における具体物の操作やモデル図等、ツールの活用 		
	2年				<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解決するために適切な観察・実験の方法を考えることができる。 ・目的意識をもって、主体的に観察・実験を行うことができる。 ・観察・実験によってどのような結果が得られるかを、既習事項や生活経験などから科学的に予想することができる。
	1年				<ul style="list-style-type: none"> ・解決の見通しをもって問題に対する予想、実験の計画をすることができる。 ・問題解決に向けた方法を工夫し、より適切な観察、実験方法を選択することができる。 ・要因や規則性、関係性を多面的に分析して考察し、より妥当な考えをつくりだすことができる。
小学校	6年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の予想を発表することで、自分の立場を明確にし、実験に対する目的意識を高める。 ・グループごとに実験計画を立てることで、問題解決までの見通しをもたせる。 ・児童が考えた実験方法が適切かどうか、話し合いの中で考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験方法を検討する場面における具体物の操作やモデル図等、ツールの活用 		
	5年				<ul style="list-style-type: none"> ・解決の見通しをもって問題に対する予想、実験の計画をすることができる。 ・問題を解決するために、条件に着目して、計画的に追究することができる。 ・質的变化や量的変化、時間的变化に着目して解決の方法を発想することができる。
	4年				<ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して同じ教材で観察・実験を行えるように工夫し、児童に前時までの学習と結び付けながら考えさせることで、学習に見通しをもたせる。 ・問題作りの場面でより活発な話し合いになるよう、児童にゲームを行いながら話し合いをさせる。 ・共通体験を行うことで、問題づくりだけではなく、予想や考察の場面での話し合いでも児童の考えを共有しやすくする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や生活経験を根拠とした予想の整理・共有を行うことができる。 ・結果までの見通しをもった実験計画をたてることができる。 ・既習事項や生活経験を基に根拠ある予想や仮説を発想することができる。 				
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・問題に正対した予想を立て、理由を生活経験から見いだそうとする。 ・自分の予想を確かめるには、どのような実験を行えばよいか理解することができる。 ・差異点や共通点に気づき、問題を見出すことができる。 				

課題 資料から読み取り、自分の考えを述べることを苦手とする。		研究テーマ 児童・生徒の関心を引き出しつつ、資料を読み取る力を育成するための指導の工夫について	
学習期	身に付けさせたい資質・能力	指導の工夫	カリキュラム改善の視点
中学校	3年	・「日本の年代別投票率」や「世界の国別投票率」など、現代社会(日本)の課題を読み取ることに加えて、どのような対策をすればよいか、自分の考えをもてるような資料を用いる。	・多面的・多角的に諸資料を考察するために、個人で読み取ったことや考えたことを発表し合いクラスで共有する。
	2年	・日本の様々な地域の地理的特色や近世以降の時代の特徴について、資料をもとに多面的・多角的に考察するとともに、資料のどの点から読み取ったかや、根拠を明らかにし、文章や言葉で表現することができる。	・少人数グループやクラスで読み取ったことの発表を行い、自分になかった視点や資料の違った側面に気づかせる。
	1年	・世界の様々な地域の地理的特色や中世までの時代の特徴について、いろいろな資料を、いろいろな角度から多角的・多面的に読み取り、その読み取ったことから、自分の考えをまとめ、意見として発表ができる。	・授業で資料を読み取る時に、いろいろな人の意見を参考にできるように、数人のグループで意見交換を必ず行う場面を設定する。
小学校	6年	・資料の読み取りでは、グラフや図など、複数の資料から読み取れるポイントについて確認する。	・複数の資料を比較して見たり、合わせて見たりすることで、自分の考えをもたせる。
	5年	・資料を読み取る際に、見て分かることと自分の考えを区別して表現させる。	・自分と友達の考えの同じ点や違う点について比較して考えさせる。
	4年 3年	・児童の興味関心を高めるための資料の提示を工夫する。 ・資料の読み取りは、写真や絵などから読み取るポイントについて確認する。	・児童にとって、身近で具体的な資料を扱い、地域の社会的事象を考えさせる。 ・資料を読み取る視点「いつ、どこで」「人、もの、こと」「広がり」「数量」「比べる」「つなげる」等押さえる。

課題改善カリキュラム【英語科・外国語活動】練馬区立大泉第二中学校・大泉第二小学校・大泉南小学校


課題 英語科の学習で、センテンスを使った会話が円滑に行われな
ことが多い。そこで、話す機会を豊富に取り入れ、コミュニケーション能力
を育ませることが大切だと考えた。

研究テーマ

「話す」領域に重点を置いた児童・生徒のコミュニケーション能力の育成


学習期		身に付けさせたい資質・能力	指導の工夫	カリキュラム改善の視点
中学校	3年	・既習の言語材料を用いて、テーマについて問答したり意見を述べ合うことができるようになる。	・帯活動におけるペア活動、新出の言語材料を使ったアクティビティに加え、教科書本文を読み、感想や考えを伝え合う言語活動を充実させる。	・相づちの言葉に加え、つなぎ言葉や会話を発展させたりするために、相手に質問するなどの工夫をさせ、積極的に会話を継続し発展させていく態度や能力を育む。
	2年	・学んだ文法をコミュニケーションの中で実際に活用できるようになる。	・使用場面や言語の働きを考えて言語活動を行わせる。	・使用場面に適した相づちの言葉を用いて、自然なコミュニケーションがとれるようにする。
	1年	・自分の気持ちや身の回りの出来事の中から簡単なセンテンスを用いて対話できるようになる。円滑に会話を成り立たせるためにリアクションを適宜使えるようになる。	・帯活動で実用的なセンテンスの練習をペアで行う。	・意識して実用的なコミュニケーション活動を繰り返し使うことにより会話に広がりをもたせ、考えながら相づちの言葉を使う。
小学校	6年	・自分の思っていることを英語で言ったり、相手の質問に英語で答えたりすることができるようになる。 簡単な相づち表現を会話に挟みながら、会話を継続させることができるようになる。	・単元を通して繰り返し必要なセンテンスの練習を行う。 簡単な相づちの言葉を黒板等に掲示し、視覚的に捉えやすくする。	・相づちの言葉を意識させて使わせることにより、会話につながりをもたせる。
	5年	・自分の考えを簡単な英語のセンテンスを使って言えるようになる。 会話を成立させるためのリアクションが使えるようになる。	・簡単な英語を用いて、自分の考えを伝えることができるように、アクティビティを通じて、慣れ親しませる。 簡単なフレーズを教室などに掲示したり、授業の導入でフラッシュカードなどを使い、慣れさせる。	・子供にとって、自然な場面設定をすることで、より興味・関心をもって取り組ませるようにカリキュラムを設定する。
	4年	・自分の気持ちを簡単な英語を使って言うことができるようになる。	・簡単な英語を用いて、自分の気持ちを伝えることができるように、単語や英語表現に慣れ親しませる。	・子供が自分事として発話できる場面を設定することで、言いたいという気持ちをもって取り組ませるようする。
	3年	・自分の気持ちを簡単な英語を使って言うことができるようになる。	・簡単な英語を用いて、自分の気持ちを伝えることができるように、単語や英語表現に慣れ親しませる。	・子供が自分事として発話できる場面を設定することで、言いたいという気持ちをもって取り組ませるようする。
	2年			
	1年			

課題改善カリキュラム【 音楽科 】練馬区立大泉第二中学校・大泉第二小学校・大泉南小学校(2019.6.5.)

課題		研究テーマ		
主体的に歌唱活動を行っていけるように！		 思いをもって豊かな表現をする児童・生徒の育成 ー気持ちも友達も音につなげてー		
学習期	身に付けさせたい資質・能力	指導の工夫	カリキュラム改善の視点	
中学校	3年	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容から作詞者が意図していることをくみ取る。 その上で、作曲者が意図している「音楽の素」から、表現していくためのさまざまな手段を模索しながら、主体的な表現を創り上げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 作者の思いや意図を受け止め、その「音楽の素」を最大限に生かしながら、主体的に意図をもって表現していけるようにする。 	
	2年	<ul style="list-style-type: none"> 身につけたすべての力を生かし、お互いに協力し合う。 混声合唱の響きを味わい、音楽活動の楽しさや感動を体験することにより、音楽の豊かさや素晴らしさを生涯にわたって親しんでいくことができる活動にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容をしっかりと把握し、そこからさまざまな「音楽の素」がなぜそうなるのかを理解し、主体的に豊かな表現へとつなげていく。 1年生での学習を生かし、各自またはグループで自主的に表現できるようにする。 	
	1年	<ul style="list-style-type: none"> 初めての混声合唱の響きを味わい、変声を考慮した無理のない声で歌う。 歌唱表現活動の楽しさを体験することにより、音楽活動の豊かさや素晴らしさを追求する活動にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 変声期の歌い方を意識できるようにする。 各声部の役割から、全体の響きまでを感じ取れるようにする。 その感じ取ったことを生かした表現ができるようにする。 小学校で身につけた基礎的な力を生かした活動をし、上級生からも学び今後につなげる。 	
小学校	6年	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫する力。 児童が自ら考えて試行錯誤し、主体的な活動をする力。 呼吸および発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない響きのある声で歌う力。 	<ul style="list-style-type: none"> 明るく豊かに響く声で歌うようにする。 変声期の歌い方を意識できるようにする。 音の重なりや和声の響きを味わって合唱するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身につけた基礎的な能力を発揮して友達と協力する活動を通して、歌う喜びを味わい、音楽の豊かさやすばらしさに触れ、活動の醍醐味を味わうようにする。
	5年	<ul style="list-style-type: none"> 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて声を合わせる力。 		
	4年	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫する力。 体の動きを通して音楽を感じたり表現したりする力。 呼吸および発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない声で歌う力。 	<ul style="list-style-type: none"> 明るい声で歌うようにする。 音が重なる響きの快さを味わうようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく無理なく声を合わせて歌う活動を通して、歌う喜びを味わい、音楽のよさに触れるようにする。
	3年	<ul style="list-style-type: none"> 互いの歌声や副次的旋律を聴いて、声を合わせる力。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な音の重なりを楽しむことを通して、歌う楽しさを身体から身に付けるようにする。 リコーダーの導入と併せて、よく聴く場面を多く設定する。 	
	2年	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞を身近なものに感じ、自分の考えや願いをもって歌う力。 歌声や発音に気を付けて歌う力。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活に根付く愛唱歌をたくさん歌い、心を込めて歌う意識を育てる。 音色に関心をもたせ、美しい音への意識や憧れの気持ちを芽生えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 良い歌い方に気付き、友達と共に楽しく歌う活動を通して、歌うことが大好きになるようにする。
	1年	<ul style="list-style-type: none"> 互いの声や伴奏に合わせる力。 	<ul style="list-style-type: none"> 身体を動かす活動をたくさん取り入れて、身体と心を思い切り発散するようにする。 	

課題改善カリキュラム【図画工作・技術・美術科】

練馬区立大泉第二中学校・大泉第二小学校・大泉南小学校

課題		研究テーマ		
小中において、鑑賞授業の実践に差があった。		 感じ取るよろこび、つながる楽しさ ～鑑賞活動を通して～		
学習期	身に付けさせたい資質・能力	指導の工夫	カリキュラム改善の視点	
中学校	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・図版や図録または、ビデオ、コンピューターなど映像を使い、効果的に鑑賞指導を進め、作品の形や色彩に着目し、造形的視点から良さや美しさを感じとれるように、自分の見方や感じ方を記述し、お互いに発表する。 ・自然や身の回りの環境などを鑑賞の対象とし、造形的な視点を持って生活を美しく豊かにする美術・技術の働きについて改めて気づき、社会生活の中で美術・技術が人間にどのように役立っているか、自分の価値意識を基に、改めて気づく。 ・日本や諸外国の美術、技術・工芸、文化遺産等、概括的な変遷を学び、それぞれの時代の特徴などを、文化的背景も考えながら比較検討するなどして、良さや美しさを感じ取らせ、自己の将来と関連させながら、主体的に考えを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸・美術・技術等の造形物や、お互いの作品の鑑賞を通して、形や色彩の造形的要素を感じ取り、自分の考えをもって主体的、対話的で深い学習が出来るように指導する。 ・自然や身近な環境の中に、造形的な美しさを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術・技術の働きについて深く理解できるようにする。 ・日本および諸外国の美術・技術等の作品を通し、文化の相違と共通性に気づき、国際理解を深め、日本文化の継承と創造への関心を高める。 	
	2年	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年の学習をさらに発展させ、美術作品などにより深く向き合い、自分の価値意識を持って批評し合い、より一層の主体的、対話的で深い学びを行わせる。主題と表現の工夫を関連させ、作品の良さをより深く感じ取らせる。 ・動植物や自然物、四季、自然現象や身近な環境の中に見られる造形的な美しさを感じ取り、心豊かにする造形(美術・技術)の働きについて考えさせ、見方や感じ方を深めさせる。 ・日本の美術や文化の特質を学び、日本に対する理解と愛情を深め諸外国との相違に気づき、工芸や美術文化を学ぶことにより、美術・技術を通した国際理解や文化・芸術の継承と創造へ関心を高め、自己の進路や将来と関連させながら主体的に深い学びに発展させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の作品や文化遺産、自然物・人工物、芸術作品や工芸作品等について、良さや美しさを感じ取り、主体的・対話的な活動を通じて、自分の考えを相手に伝えることができるようにする。 	
	1年	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の造形や美術・工芸作品、また、文化遺産などについて造形的な良さや美しさを感じ、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。 ・身近な地域や日本および諸外国の美術文化の良さや美しさを感じ取り、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図録やビデオ、コンピューターなどを使い自然の造形や人工物、文化遺産、工芸作品や芸術作品を提示し、様々な作品の内容や表現方法などから、作者の心情や意図、美しさを、自分の感覚や印象を基に、対話などを通して説明し合い、自分の考えも伝え、また、自分にはない新たな見方捉え方もあることを理解する。 	
小学校	6年	<ul style="list-style-type: none"> ・A表現とB鑑賞の指導について相互に関連を図るため、制作途中で友達作品をお互いに触れられるようにしたり、材料の置き場の位置を工夫したりすることで、常に鑑賞ができ、お互いの作品の良さを感じ取れるようにする。作品の製作の過程で一律に形式的な相互鑑賞は設けない。これは、造形活動の広がりや表現の意欲の高まりを妨げないようにするためである。 ・ただテーマをもとに自分の表現をするのではなく、鑑賞から導入することで自分の主題を思いつきやすくしたり、イメージを広げられるようにしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・温かな雰囲気をつくり、思ったことを発言しやすいようにする。 ・ワークシートを活用し、自分の感覚や考えの深まりに気付くようにする。 	
	5年		<ul style="list-style-type: none"> ・親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。 	
	4年	<ul style="list-style-type: none"> ・対象に親しみをもち理解を深めたり高め合ったりするために、鑑賞活動に友だちとの交流を加え、それぞれのイメージの違いやおもしろさを発見したり味わったりする。 ・自分たちで鑑賞するカードを作ることから行い、作者の意図と観る側の感じ方の違いの面白さも味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの感じ方を伝え合い、感じ方の違いを楽しむ経験を多くさせる。 ・形や色は様々なイメージをもっていることに気付かせる。 ・自分や友だちの考えを尊重し合い、お互いの意見を共有できるようにさせる。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの作品や身近にある美術作品や制作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ることができる。 ・感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちの作品を見て感じたことを話したり書いたりする機会をつくる。 		
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの身の回りの作品や材料などを楽しく見たり、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に名前を付けたり、発見、感動したことを書くことで意識させるためのカードを作ったりし、機会を見つけて自己評価をさせる。 ・互いの工夫などを話し合ったり発表したりする場を作る。 		
1年				

課題
児童・生徒の経験不足・手先の器用さの低下(技能)



研究テーマ
日常生活に役立つ基礎的・基本的な技能を身に付けようとする児童・生徒の育成

学習期		身に付けさせたい資質・能力	指導の工夫	カリキュラム改善の視点	
中学校	3年	<p>日常よく用いられる食品を、安全と衛生に留意し、調理できる。魚や肉、野菜の調理上の性質を理解し、計画にそって効率よく実習ができる。また、実習を通して食生活を自立的に営む力を身に付ける。</p> <p>○技能の習得 ○調理の目的に合った調味 ○料理の様式に応じた盛りつけ ○食品の安全で衛生的な扱い方を理解する。 ○環境に配慮した生活の具体的な方法がわかる。</p>	<p style="text-align: center;">技能の習得</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【切り方】 (包丁) 乱切り・斜め切り・ひょうし切り・ささがき・みじん切り・さいの目切り)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【肉・魚・野菜を使った料理加熱調理法】 ゆでる、煮る、焼く、炒めるなどができる。</p> </div> </div>	<p>○小学校での既習内容を振り返らせ、調理に必要な手順や時間を考えて計画を立てる。 ○家庭との連携 学習内容の予告や報告を学年便りを通じて知らせることで、技能の向上や応用力を身に付けることにつなげていく。</p>	<p>○調理することの喜びを味わい自ら調理をすることによって、食生活に対する関心を高め、日常生活における実践につなげる。</p>
	2年				
小学校	6年	<p>日常よく用いられる食品を用いて、食品や調理法に応じた洗い方、目的に合った切り方、味の付け方が分かる。目的に応じてゆでたり、いためたりして調理できる。</p> <p>○技能の習得 ○衛生的な材料の洗い方(ため水→流水)</p> <p>○環境に配慮したごみの出し方を考える。材料を有効に用いた調理の工夫ができる。</p>	<p style="text-align: center;">素材の中に火を通すこと</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【切り方】 (切る) 一口大・せん切り・輪切り・半月切り・いちょう切り・短冊切り・薄切り・(皮むき) →形や大きさをそろえる</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【いためる調理】 ・フライパンで油を使い、かき混ぜながら加熱する ・いためる時間や火力を調整する ・材料を入れる順番を考える。</p> </div> </div>	<p>○本番調理の前に、試し料理の場を設定する。課題解決のためにスモールステップで取り組めるようにする。 ○多様な方法や目標を提示し、自分に合ったものを選択できるようにする。 ○洗うことから味付けまで、一人一人が調理の過程を全て経験できるようにする。 ○技術の定着を図るために5・6年で既習事項を確認する。 ○家庭との連携～ 学習の内容を知らせたり、家庭での課題にすることで、より実践できる力を付け、技能の定着を図る。</p>	<p>○試し調理等を通して、課題を見つけて、課題解決のための方法を児童が考えられるようにする。 ○5・6年でくりかえし、技術が定着させる。</p>
5年					

課題		研究テーマ			
食を通して、児童生徒の心身の健康を育む		食物アレルギーを正しく理解し、自他を守る実践力を身につける			
学習期	身に付けさせたい資質・能力	指導の工夫	カリキュラム作成の視点		
中学校	3年	<p>【実践力を身につけさせるために】</p> <p>○一斉指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭・栄養士が作成した資料をもとに、担任が給食開始前にアレルギーについて指導をする。 ・入学時の給食オリエンテーションの中で、栄養士がアレルギーについて話をする。 ・校外学習や宿泊行事の事前指導の中で、養護教諭・栄養士が緊急時の対応を含めた指導をする。 <p>○アレルギーを持つ生徒への一斉指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習や宿泊行事の前に、アレルギーを持つ生徒への事前指導と保護者への確認をする。 <p>○個別指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー面談等を活用し、保護者を含め生徒に給食の配膳や確認の仕方、部活や校外学習、家庭生活における注意点など指導をする。 ・給食配膳時に生徒にどのメニューにアレルギー食材が入っているかなど具体的な指導をする。 	<p>・大人の目のないところで食品を選択する機会が増えるため、校外学習や宿泊行事を通して、自分や周りの友達の安全を確保した食事が実践できる力を身につけさせる。</p> <p>・保護者や教員と離れた場所で緊急事態が起きた時、応急処置や周囲に助けを求めることができる力を身につけさせる。</p>		
	2年			<p>【実践力】</p> <p>(大人の目のないところで生徒自身が友達と実践できる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習の自由行動など、自由に食品を選べる中でや大人の目が届かないところで食品を正しく選択できる ・自他を守るための緊急時の対応ができる ・自分で体調の管理ができる 	
	1年				
小学校	6年	<p>【実践的理解】</p> <p>(大人の目が届き、教員がいる場所で児童自身で実践できる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食やバイキングなど決められた食品の中から正しく選択できる。 ・わからないものは食材を確認することができる。 ・自分だけでなくグループメンバーのアレルギー食材に気づき防ぐことができる。 ・症状への対応や薬の管理ができる ・アレルギーを起こさないための体調の管理ができる 	<p>【実践的理解をさせるために】</p> <p>(高学年)</p> <p>○一斉指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養士が移動教室の実際のメニューを教材にして食育指導をする。 	<p>(全学年)</p> <p>○一斉指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭・栄養士が作成した資料をもとに、担任が給食開始前に実際の給食を想定させてアレルギーについて指導をする。 <p>○個別指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー面談等を活用し、保護者を含め児童に給食の配膳の仕方や確認の仕方を指導をする。 	<p>・宿泊行事という保護者の目が届かないところで食事を選択する機会(バイキング)があるため、自分や周りの友達の安全を確保した食事ができるようにさせる。</p>
	5年				
	4年	<p>【知識理解】</p> <p>(大人と一緒に実践できる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーの症状や食品がわかる。 ・自分のアレルギー食材がわかる。 	<p>【知識理解をさせるために】</p> <p>(低学年・中学年)</p> <p>○一斉指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭が紙芝居等を使用し、視覚に訴え保健指導をする。 ・事例を交える。 	<p>○個別指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー面談等を活用し、保護者を含め児童に給食の配膳の仕方や確認の仕方を指導をする。 ・給食配膳時に児童にどのメニューにアレルギー食材が入っているかなど具体的な指導をする。 	<p>・食品が自分の食べてよいものかを考え、正しく判断する力を身につけさせる。</p> <p>・食物アレルギーを正しく理解し、周りの友達を思いやる心を育てる。</p>
	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・食べられるか食べられないか確認しなくてはならないことを知っている。(出されたものをそのまま食べない) ・自分のアレルギーを伝えることができる。 			
	2年	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応食の日はおかわりしない ・給食、おやつとの交換をしない。 ・こぼさないなどのマナーを守ることができる。 			
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体の異変を伝えることができる。 ・周りの子の体の異変を伝えることができる。 				